

平成26年度「宇北高等学校評価アンケート」まとめ

1 調査の概要

学校評価の一環として、本校を保護者、生徒、教職員はどうとらえているかを調査した。本年度の重点目標に対する3項目を含め、可能な限り共通の質問を用い、三者の意識の違いを比較した。また昨年の結果との比較も行った。

回答については A:大いにそう思う、B:そう思う、C:あまり思わない、D:全く思わない、の4つの選択肢を用い、保護者対象のものだけ E:わからない、を加えた。

	生徒	保護者	教職員
回答者数	940	879	65
回答率	97.6%	91.3%	92.9%
調査日	平成26年11月13日	平成26年11月13日～20日	平成26年11月25日～28日

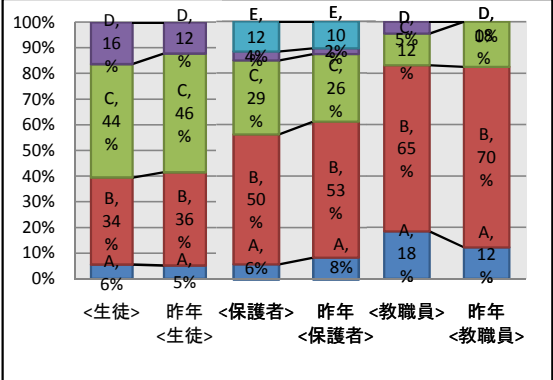
2 質問事項と集計結果

【 A,大いにそう思う B,そう思う C,あまり思わない D,まったく思わない E,わからない 】

【重点目標①】

学力の伸長

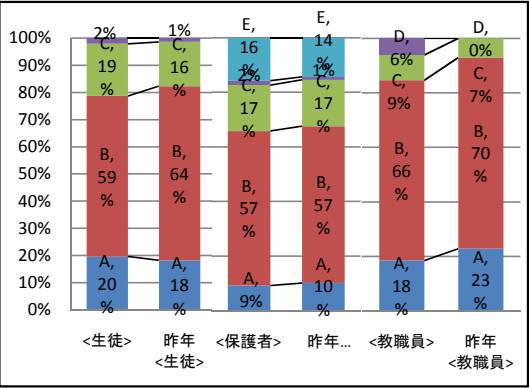
＜生徒＞	私は、宇北高に入学して学力が向上している。
＜保護者＞	宇北高の教育は入学した生徒の学力を伸ばしている。
＜教職員＞	本校の教員は、授業を通して、確実に学力を付けさせている。
前年度比較では、生徒、保護者とも「あまり思わない」「全く思わない」の否定的な回答が増加している。教員は昨年なかった「まったく思わない」が5%ある一方で、「大いにそう思う」が増えており、生徒・保護者の認識との間に差がある。 3年間の推移をもう少し細かく見てみると、生徒、保護者とも、1年から2年で、肯定的回答が減り、2年から3年になると肯定的回答が回復上昇する傾向がある。	



【重点目標②】

進路の実現

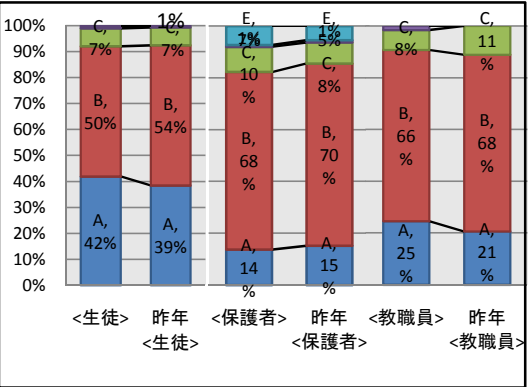
＜生徒＞	宇北高の先生は、生徒の進路について、生徒の適性を生かし、希望の実現につながる進路指導を行っている。
＜保護者＞	宇北高の先生は、生徒の進路について、生徒の適性を生かし、希望の実現につながる進路指導を行っている。
＜教職員＞	本校の教員は、生徒の進路について、生徒の適性を生かし、希望の実現につながる進路指導を行っている。
生徒、職員で、「大いにそう思う」の回答が増加しているのに対し、保護者は減少している。全体的には否定的回答（あまり思わない」「全く思わない」）は生徒、職員よりも保護者の割合が高く、多少認識のズレがみられる。	



【重点目標③】

ルール・マナーの遵守

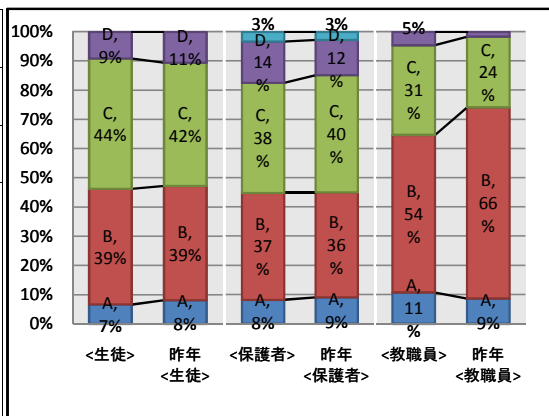
＜生徒＞	宇北高の先生は、生徒に対してルールやマナー（服装、遅刻、礼儀、交通安全等）を守るよう指導に努めている。
＜保護者＞	宇北高の先生は、生徒に対してルールやマナー（服装、遅刻、礼儀、交通安全等）を守るよう指導に努めている。
＜教職員＞	本校の教員は、生徒に対してルールやマナー（服装、遅刻、礼儀、交通安全等）を守るよう指導に努めている。
生徒、職員で、「大いにそう思う」の回答が増加しているのに対し、保護者は減少している。全体的には否定的回答（「あまり思わない」「全く思わない」）は生徒、職員よりも保護者の割合が高く、多少認識のずれがみられる。	



【学習指導①】

予習復習の徹底

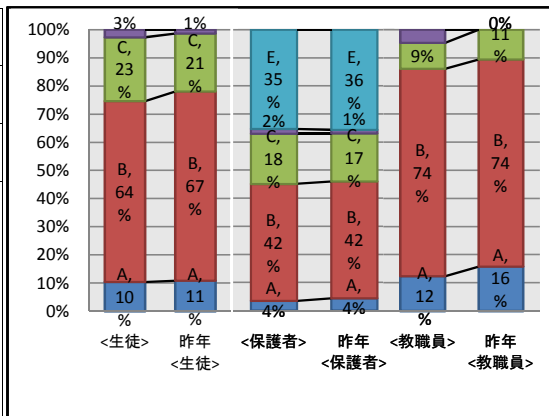
＜生徒＞	私は、毎日予習・復習をして授業に臨んでいる。
＜保護者＞	私の子供は、毎日予習・復習をして授業に臨んでいる。
＜教職員＞	本校の教員は、毎日の予習・復習など家庭学習の習慣を身に付けさせている。
職員の「大いにそう思う」と「ややそう思う」を併せた肯定的回答が65％に減少したが、生徒、保護者の肯定的回答がいずれも50％を下回っており、認識に差がみられる。 3年間の推移をみると、肯定的な評価は1年から2年になって若干減少し、2年から3年になると大幅に増える。生徒、保護者とも同様であるが、特に生徒でこの傾向が強い。	



【学習指導②】

わかりやすい授業

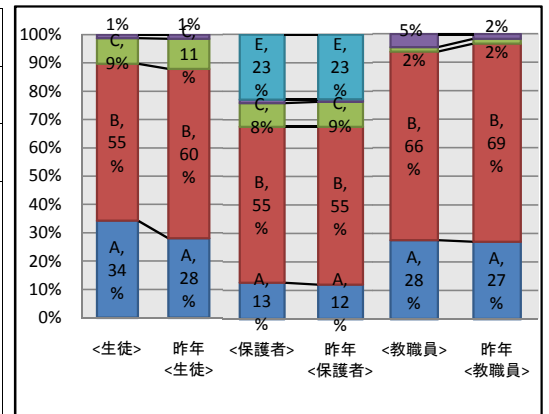
＜生徒＞	宇北高の先生はわかりやすい授業を行っている。
＜保護者＞	宇北高の先生はわかりやすい授業を行っている。
＜教職員＞	本校の教員はわかりやすい授業を行っている。
授業のことなので保護者は「わからない」が多く、全体的には昨年と変わらない。生徒、職員はいずれも「あまり思わない」「全く思わない」の否定的回答が増加している。 この設問も予習復習の設問同様、2年になると肯定的回答が減り、3年になると大きく増加する傾向がみられる。	



【生活指導①】

生徒からの相談

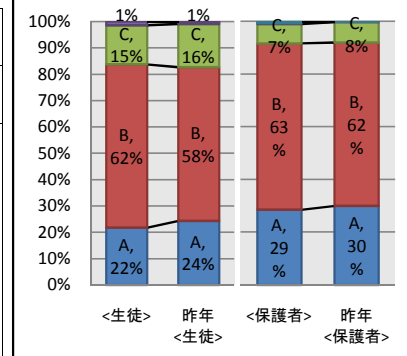
＜生徒＞	宇北高の先生は生徒からの相談に誠実に対応してくれている。
＜保護者＞	宇北高の先生は、生徒からの相談に誠実に対応してくれている。
＜教職員＞	本校の教員は生徒からの相談に誠実に対応している。
保護者は前年度と大きな変化は見られず、全体の1/4が「わからない」としている。生徒は「大いにそう思う」が増え、逆に職員は「全く思わない」が増加した。 3年間の推移をみると、保護者、生徒とも、肯定的な回答が2年になって若干減少するものの、3年になると大きく増加し、特に生徒にはこの傾向が強い。	



【生活指導②】

規則の遵守

＜生徒＞	宇北高生は、服装、頭髪など学校の規則を守っている。
＜保護者＞	私は、子供の服装、頭髪、交友関係や遅刻等に常に関心を払っている。
生徒、保護者とも、「大いにそう思う」の回答が若干減少しているが、全体の傾向としては前年度と大きな変化は見られない。	

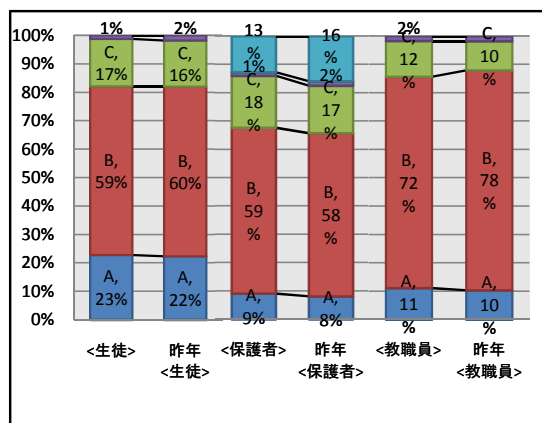


【 A,大いにそう思う B,そう思う C,あまり思わない D,まったく思わない E,わからない 】

【進路指導】

進路情報

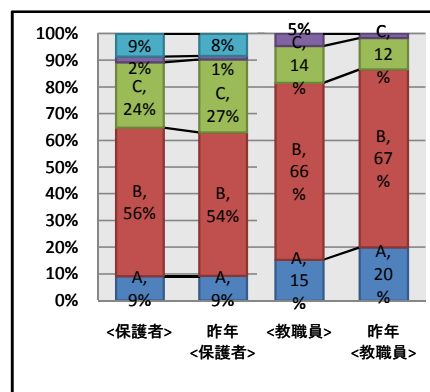
＜生徒＞	宇北高が提供する進路情報は、役に立っている。
＜保護者＞	宇北高が提供する進路情報は、役に立っている。
＜教職員＞	本校が提供する進路情報は、役に立っている。
前年度比較では生徒はほぼ変化なく、保護者は「わからない」が減って「ややそう思う」の肯定的な評価が若干増えたのに対して、職員は否定的な評価が若干増えた。生徒・職員に対して保護者は否定的な回答がやや多く、認識に差がある。 3年間の変化をみると、この項目でも2年になると肯定的な回答が減少し、3年になると増加する傾向がみられる。	



【情報発信】

教育方針や情報の伝達

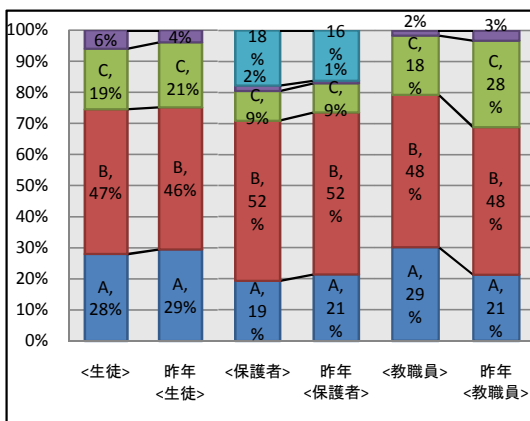
＜保護者＞	宇北高は、教育方針や学校の情報を保護者に積極的に伝えている。
＜教職員＞	本校は教育方針や学校の情報を保護者に積極的に伝えている。
前年度比較では職員は「大いにそう思う」が減って「全く思わない」が増加しており、保護者は「ややそう思う」が微増している。この項目でも否定的な評価が保護者で30%強であるのに対して、職員は20%弱(26年度)と10%強の差があり、認識にずれがある。	



【国際理解教育】

内容の充実

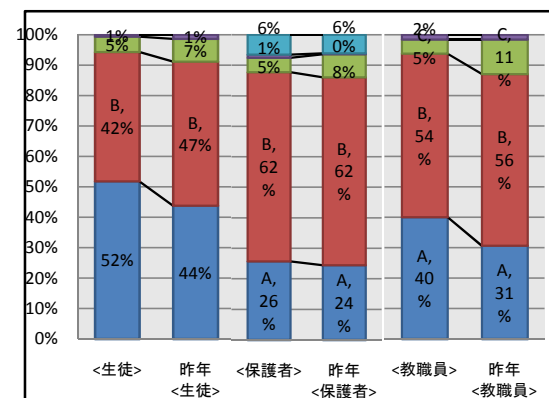
＜生徒＞	宇北高の国際理解教育は他校に対して誇れる充実した内容である。
＜保護者＞	宇北高の国際理解教育は他校に対して誇れる充実した内容である。
＜教職員＞	本校の国際理解教育は他校に対して誇れる充実した内容である。
前年度比較では、生徒は「全く思わない」が若干増加し、保護者では「わからない」が増加したのに対して、職員は「大いにそう思う」「ややそう思う」の肯定的評価が増加した。 3年間の推移をみると、この設問では肯定的な評価は1年が一番多く、2年になって肯定的な評価が減少し、3年になってもそのまま変わらない傾向がみられる。	



【部活動】

活発さ

＜生徒＞	宇北高は、部活動・生徒会活動が活発に行われている。
＜保護者＞	宇北高は、部活動・生徒会活動が活発に行われている。
＜教職員＞	本校は、部活動・生徒会活動が活発に行われている。
前年度比較では生徒、保護者、職員ともに肯定的な評価が増加しており、生徒、保護者、職員それぞれの立場から、活発な活動が評価されていることが伺える。	

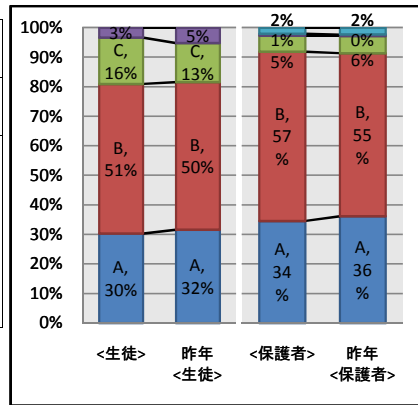


【教育活動全般 ①】

【 A,大いにそう思う B,そう思う C,あまり思わない D,まったく思わない E,わからない 】

宇北高生としての誇り

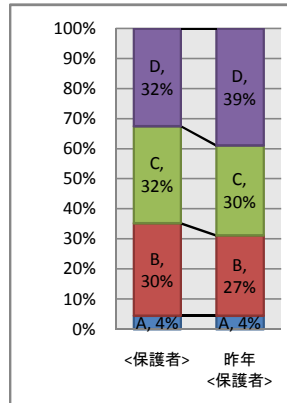
＜生徒＞	私は、宇北高の生徒であることに誇りをもっている。
＜保護者＞	私は、子供が宇北高の生徒であることに誇りをもっている。
前年度比較では、保護者はほとんど変化がないが、生徒は「あまりそう思わない」が増えて、全体として肯定的な回答が減っている。 この項目も、生徒・保護者ともに2年で肯定的な評価が若干減少し、3年になると増加する傾向がみられる。	



【教育活動全般 ②】

ホームページ

＜保護者＞	宇北高のホームページを見ている。
前年度比較では、まったく見ていない保護者が減少し、1～2回程度の閲覧も含めると、およそ 2/3の保護者がホームページを閲覧するようになった。	

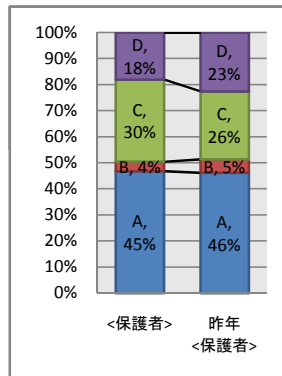


D, 見ていない
C, 1～2回見たことがある
B, 時々見る
A, 積極的に見ている

【教育活動全般 ③】

PTA総会・学年保護者会への参加

＜保護者＞	私はPTA総会や学年保護者会に参加した。(授業参観のみを含む)
前年度比較では、「総会、学年どちらも不参加」が減少し、「学年会参加」が増加している。	

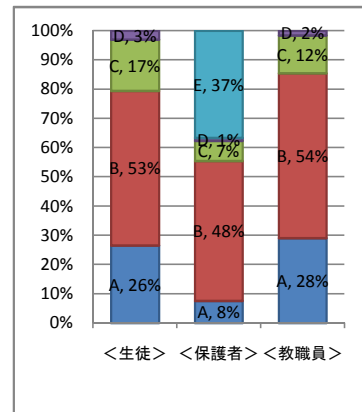


D, どちらも不参加
C, 学年保護者会のみ参加した
B, PTA総会のみ参加した
A, 両方参加した

【いじめ対応】

【 A,大いにそう思う B,そう思う C,あまり思わない D,まったく思わない E,わからない 】

＜生徒＞	宇北高は「いじめを許さない学校づくり」に努めている
＜保護者＞	宇北高は、「いじめ」に対し、「基本方針」に基づいてしっかり対応している
＜教職員＞	本校は、「いじめ」に対し、「基本方針」に基づいてしっかり対応している
今年度から新たに加えた質問。保護者で「わからない」が37%と多いのは本校の「いじめ対策基本方針」について、保護者に十分に周知されていないことが背景の一つかと思われる。 対応については、特に生徒の20%、職員も14%が不十分と考えていることがわかる。	



3 改善に向けた今後の取り組み

- ◆ 全体的な前年度との比較だけではなく、同じ集団について、年度ごとに同じ質問の回答を比較してみると、1年から2年になると肯定的な回答が減り、3年になると回復して大きく増加する傾向がみられる。この傾向は、特に学習や進路に関する設問で顕著である。このあたりの背景などを、もっといろいろと分析してみると、学習や進路に関する指導の改善の糸口が見えてくるのではないかとと思われる。
- ◆ 今後は、本アンケートの結果を踏まえて各部・学年の自己評価を行う。次いで、学校評議員等の学校関係者からの評価も踏まえて、今年度の重点目標の達成状況や達成に向けた取り組み状況を把握、整理する。そのうえで来年度に向けての改善方策の検討を行い、来年度の重点目標を決定したい。